

# 食が生み出す コミュニケーションの場

## 特集 ⑤



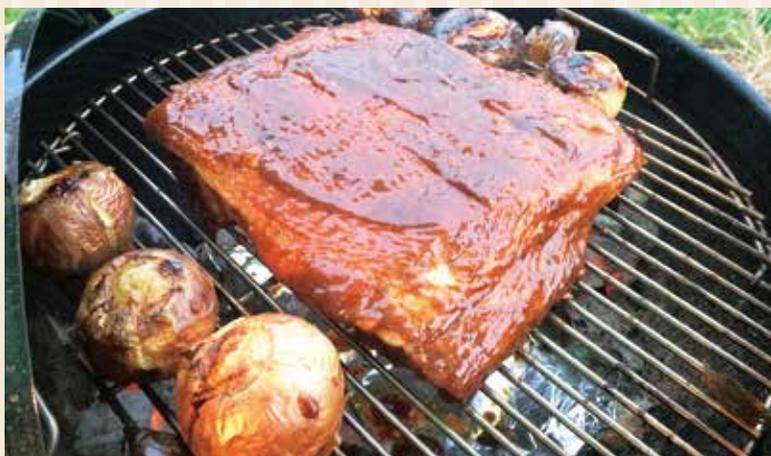
(松野町)  
快援隊 隊長  
肉本 龍馬  
(本名：沖野 克成)



「今日は、何焼きよんぞ。」

自宅の前でBBQの実験をしていると、散歩中の近所のおっちゃんか、必ず声をかけてくる。

おっちゃんだけでなく、初めて松野町を訪れたお遍路さんも肉を焼く匂いと煙に引き寄せられて、声をかけてくれる。「BBQ侍のいるBBQはおもしろい」と、シンガポールから友達を連れて、松野町



どすこい焼き豚(約4キロ)

に遊びに来てくれたリピーターさんもうらっしゃった。

僕は、知らない人でもたった一瞬で仲良くなれるBBQが大好きだ。BBQには、楽しいコミュニケーションのネタが沢山ある。だから、BBQ侍の周りには人が集まってくるのだ。

始まりは4年前、愛媛県で一番小さな町、松野町で地元の特産品である猪肉・鹿肉を使った町おこし活動と出会ったこと

がきっかけだった。1キロ超えの巨大な猪肉を丸ごと焼くスペシャルなBBQと町おこしに興味を持ち始め、町の人たちと交流を重ね、2年前に思い切って松野町に移住した。目的は、松野町のオリジナルBBQを開発し、人口4000人の町を明るくするため。移住してから、色んなものを焼き(約400種類)、色んなスタイルのBBQを試してみた。お客さんは、遊びに来るのだから、自分が一番楽しもう!!

自分が楽しくない  
と参加された方も  
きつと楽しくない  
だろう。そう考えた。



鹿ロースのステーキ

たどり着いたのが、『美味しいよ(伊予) BBQ体験』という体験型のBBQ。

愛媛を中心に美味しい食材を集め、準備から片付けまで、みんなで楽しむ体験型のBBQだ。体験時間は約5時間。お金を払って、時間もかけて、準備から片付けまで自分たちでする。それでも沢山の人が体験型のBBQイベントに参加してくれた。何がそんなに楽しいのか。

原始時代のころから、人間はみんなで協力してご飯を作り、みんなで分け合って食べていた。きつと、色んな話をしながら笑って食べていたのだろう。協力して狩りをして、協力して野菜を収穫し、協力して作ったご飯だから、そこに物語があ



BBQができるパパは格好いい

体験が終わった後に、「一番楽しかったのは何ですか。」と聞くと、「みんなと一緒に作るのが楽しかった。」と、高い確率でこう答える。なぜだろう。妄想が得意な僕は、こんなことを考えている。



世界で松野町だけ！ニジマスの黄金焼き

る。物語があるから、ご飯を作る過程では、自然と会話が生まれ、できあがったご飯をみんなで食べるときには、楽しい会話がさらにはずむ。自然と仲間意識が生まれ、仲良くなる。昭和の初期くらいまでは、それが当たり前だったのではないだろうか。それが、いつの間にか協力しなくてもご飯が作れるようになり、一人で食事をするが多くなる生活になってしまった。長い人間の歴史の中で、今の食事

楽しい会話が止まらなくなるようなBBQを、快援隊のテーマである「一生記憶に残るBBQ」を、愛媛県で一番小さな町、松野町から発信していきたい。



ケンボロソーダでござる!!

のスタイルは、異常事態なのかもしれない。松野町で体験できる、『美味しいよ(伊予) BBQ体験』には、失われた食事のスタイルがある。マイナスイオンたっぷりの大自然の中のキャンプ場で、他では見たことのない焼き方で、お肉やお魚を焼く。会話のネタが沢山あるから、自然とコミュニケーションがとれ、楽しく食事ができる。自ら体験したことだから、そこには一人ひとりの物語が生まれ、その物語を家や職場で家族や友人に話す。一度の体験から、何回も人とコミュニケーションを取れるのだ。だから、多くの人たちに受け入れられたのかもしれない。

BBQ侍「肉本龍馬」は、坂本龍馬さんの大ファンだ。団体の名前は、龍馬さんが創った「海援隊」にちなんで「快援隊」。楽しいことで日本を応援する。という意味だ。人を良くすることと書いて「食事」。これからも、